
東方双神録

新谷 公輝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方双神録

【Nコード】

N1568T

【作者名】

新谷 公輝

【あらすじ】

平穏な日々が続いていた幻想郷。

そんなある日、謎の生物が現れ幻想郷の人間を襲い始めた。

これに危機を感じた幻想郷の住人達はそれぞれ調査を始め、その中で魔理沙は香霖堂で一冊の本を見つける。

それは、この異変を解決するための手掛かりとなるものだった。

プロローグ

魔理沙「霊夢。さっき香霖堂ですごい本を見つけてきたんだぜ」

幻想郷の東にある博霊神社に降り立った魔理沙はひとりでお茶を飲んでいた霊夢のもとへ駆け寄っていった。

霊夢「なによ魔理沙。ここの所変なものが幻想郷中にあふれてきていて、そのせいであちこち飛び回って疲れてるんだから静かにしてよ」

そう言って霊夢はふう、とため息をついた。

霊夢「あの化け物どもどこにでもあらわれるし、言葉通じないし、倒しても次から次へと出てくるし、それに何より気持ち悪いし・・・」

「

魔理沙「ああ・・・。昨日のなんて、肉の塊に口がたくさんついたような奴だったよな。弾幕食う奴なんて初めて見たぜ」

霊夢「できればあの姿を思い出させないでほしいんだけど・・・」

魔理沙「マスパ吸い込んだ後に動かれたときはさすがにビビったぜ。あの時スキマ妖怪が来てくれなかったら、あたしら食われてたんじゃないか？」

霊夢「確かに、あれはやばかったわ。まだあんなのが出てくるのかしら・・・」

いやな思いばかりが積もり、霊夢はうなだれた。

霊夢「……ところで。あんたは香霖堂でいったい何の本を見つけたのよ？」

魔理沙「おお。よく聞いてくれた」

そういった魔理沙は持っていた本を霊夢の目の前に突き出した。

魔理沙「聞いて驚くなよ。この本にはな、あの化け物やとあいつらと戦っていた人間について記録された本なんだよ」

霊夢はそれを聞いてはつとなると、魔理沙からその本を奪い取り、中を確認した。

霊夢「……本当ね。この前退治した奴の特徴とか対処法とかが詳しく書いてある……。なんでこんなものが霖之助さんのところに？」

魔理沙「拾ったって言ってたぜ」

霊夢「つてことはまさか……。これって外の世界から流れ込んできたものってこと？」

魔理沙「たぶんな……」

霊夢と魔理沙はその考えに驚いた。

外の世界がらみの異変。

この本からはそう判断せざるを得なかった。

第一章 導入（前書き）

どうも、ちんたら更新？を続けて？きましたが
今回、書き直しをすることにしました

あのままいこうとすると、地味に話の展開が面倒になるためです

ま、取り敢えず、期待せずに見てください

第一章 導入

この世の中には、知られていないだけで不思議なものがあふれている。

それは気付かれていないだけで、関わる機会がないだけで、知ることがないだけで大抵の人はないものだと思います。

僕は、そういったものに触れる機会が幼い頃からあり、父さんの実家がその場所だった。

湘南、江ノ島にある父さんの実家は江戸時代から続く由緒正しい厄払いの家。人々の厄を払い福を呼ぶ霊的戦闘一家、またはゴーストバスターとも言う。

そんな家であるがゆえに、その書庫には禍^マツ神^{ガミ}と呼ばれる悪霊に関する資料がごっそり出てくる。

禍ツ神というのは、人に取り憑いて厄をもたらす、俗に言う貧乏神とか、そんなやつ。

他にも人の恋路を邪魔したり、事故を引き起こしたり、理性を狂わせたりするやつなんかもいる。

姿も能力も個体によってバラバラなのだが、共通点はある。それはどの個体も関わった人間を不幸に陥れるということ。そして、時には死をもたらす危険な存在であるということだ。

そんな危険な存在である禍ツ神は50年ほど前に黄泉之国に送り込

まれ、現在世界は多少の事件やら紛争やらがあっても、なんとかやっていけている。

この時活躍したのはじいちゃん、河川家当主の河川菊之介である。

じいちゃんは50年前は最強とまで言われた戦士だったんだそうだ。普通のじいちゃんはどこにでもいそうな普通の人で、長期休暇に里帰りした時に見る姿からはそんなことはまるで想像もつかない。

ぶっちゃけ、そんな話は嘘なんじゃないかとも思ってしまう位だ。

間違っても、自分の腕を捨てたりするどこぞのバーニングおじちゃんみたいな人ではない。

見た目は戦いとはまるで無縁な人だ。

ちなみにはあちゃんも似たような人で、50年前に活躍していたらしいが、

今見ることができるのは神がかった料理の腕だけである。

本人いわく、学生時代から料理が趣味だったんだとか。

ちなみに、とてつもない儉約家だったりする。

そんな祖父母がいたからこそ、この夏は僕のこれからの人生を大きく変えることになったのだと思う。

第一章 導入（後書き）

解説

バーニングおじいちゃん

週刊少年ジャンプのブリーチに登場するあの人。
あまり説明しなくても大抵の人はわかるはず。

夏の始まり

高校一年の夏休み数日前に一通の手紙が届いた。

それは江ノ島の実家から届いたもので、中には江ノ島までの切符が入っていた。それも、わざわざ日付を夏休み初日に合わせていた。前に電話で例年通りにお盆の時に遊びに行くと言っていたのにもかかわらずだ。

今まで向こうから呼ばれることはなかったから、多少の戸惑いはあった。

「……まあ、そんなわけで急に江ノ島に行かないといけなくなったから、部活には顔出せない」

「そうか、わざわざ切符までよこしてきたんだし行かないわけにはいかないだろうからな。仕方ない」

同じ部の友達は、そう言ってくれた。

「元々、部員が数えるほどしかない小さな部だ。それにこれといって大きな事をしているわけでもないから、別にいてもいなくても変わらない」

「僕、これでも部長なんだけど……」

部員は的確に急所をついてきた。

「それ、消去法で決めたやつだろ。名前だけでたいして意味もない。それに潰れる可能性大の部活の部長なんて大したことないし」

「さいですか」

部員は必要以上に非情だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1568t/>

東方双神録

2012年1月13日14時46分発行